

**製品名: Crk-L (リン酸化 Tyr207) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab04501**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	39kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CRKL
別名	CRKL; Crk-like protein
遺伝子 ID	1399.0
SwissProt ID	P46109
免疫原	抗血清は、ヒト CrkL 由来の Tyr207 のリン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 173-222

**背景**

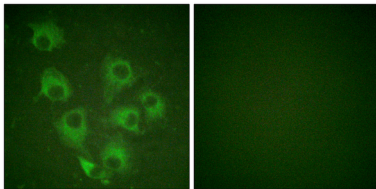
この遺伝子は、SH2 および SH3 (src 相同性) ドメインを含むタンパク質キナーゼをコードしており、RAS および JUN キナーゼシグ

ナル伝達経路を活性化し、RAS 依存的に線維芽細胞を形質転換することが示されている。BCR-ABL チロシンキナーゼの基質であり、BCR-ABL による線維芽細胞の形質転換に関与し、発癌性を有する可能性がある。[RefSeq 提供、2009 年 1 月],機能: 細胞内シグナル伝達を媒介する可能性がある。、類似性: 1 つの SH2 ドメインを含む。、類似性: 2 つの SH3 ドメインを含む。、サブユニット: INPP5D/SHIP1 と相互作用する。DOCK2 および EPOR と相互作用する。リン酸化 CBLB および IRS4 と相互作用する。、

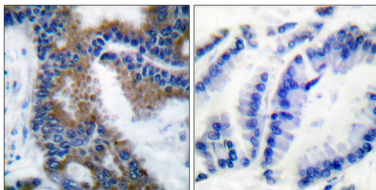
## 研究分野

MAPK\_ERK\_Growth;MAPK\_G\_Protein;ErbB\_HER;ケモカイン;焦点接着;Fc γ R を介した貪食;神経栄養因子;アクチンと細胞骨格の調節;インスリン受容体;癌における経路;腎細胞癌;慢性骨髄性白血病;

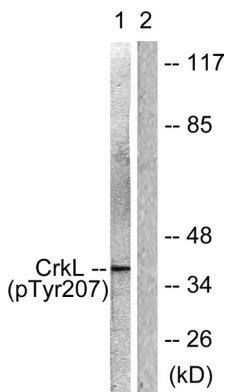
## 画像データ



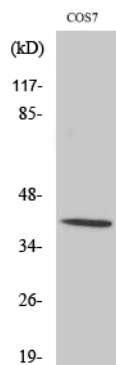
CrkL (リン酸化 Tyr207) 抗体を用いた HUVEC 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした画像です。



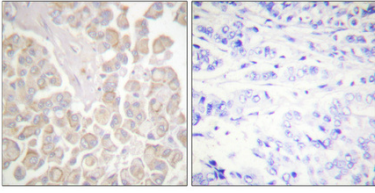
CrkL (リン酸化 Tyr207) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



COS7 細胞ライセートの CrkL (リン酸化 Tyr207) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 Crk-L (Y207) ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。